

(別紙2-1)

団体名:御菜浦・三番瀬ふなばし港まつり実行委員会

補助事業成果報告書

1 補助事業名

御菜浦・三番瀬ふなばし港まつり

2 補助事業の実施結果概要

申請書の同じ項目と比較し、この補助金を使用して行った事業の概要を簡潔に記載してください。

(1)実施事業内容の概要

三番瀬(場)の保全と再生を促進することを目的に、場に関係する水系に居住する市民と、それを管理する行政、場で生活する漁師、水面を利用する港湾業務者、場を取り巻く事業者、協力、参加を要請し、これら全ての人たちに場の再認識・再確認を押し広げるために、場を見て、食べて、論ずる会場を、場に昔から関わる船橋漁港を中心に平成21年10月10日(土)に開催した。

☆具体的には、漁船による場の見学会、船橋(三番瀬)産魚介類の販売・産物活用加工の屋台、飲みもの等の販売、三番瀬の生き物展示、写真などによる資料展示、リサイクル品の販売、港の清掃など。企画内で、スタンプラリー(三番瀬の必要性アピール)を行った。

☆集客は、17000人であった。ITによる港祭り集客、参加案内を行った。県のシンボルマークを活用(チラシ、ポスター)、渡船実験による集客アップを行ったが、前日の台風の影響、午後の一時雨が集客に多少の影響があった。

☆本事業は19年より実行、3年目と成る、回を重ね内容を充実させ、船橋、秋の催しとしての定着、水系の街づくりイベントと連携し成果が上がり、本年は更なる漁業関係者(漁組、組合員)の参加協力があった。

☆今年は会場レイアウトを見直し、会場をポートパーク中心に設定、まとまりがあった。

(2)事業の実施経過

実施まで月1回の実行委員会を行い、9月は、月2回、実行委員会を行った。

実行委員会は、合計10回となった。

10月10日(土)開催。

11月11日総括の実行委員会を行った。

(3)事業の実施による三番瀬再生・保全や地域住民が親しめる海の再生への効果の発現状況

*三番瀬の貴重な自然が参加者「県民、市民、スタッフ(各団体、企業、県:担当)各行政」の努力の成果で身近に感じ、漁業が船橋市の一次産業として認める手段の一つとして共通確認が出来た。漁協組合員の努力が原動力となり、特に三番瀬見学「漁場を含む」の参加者アップとなった。

*海を活かした街づくり関係団体に波及し広がりをみせている。

平成21年度 補助事業成果報告書

1 補助事業名

市民による三番瀬写真展

2 補助事業の実施結果概要

申請書と同じ項目と比較し、この補助金を使用して行った事業の概要を簡潔に記載してください。

(1)実施事業内容の概要

(概要)

三番瀬に関する地元写真家及び一般市民の作品の展示会を、「みんなの三番瀬写真展」一市民による三番瀬写真展と題して、三番瀬サテライトオフィス（船橋市）で平成21年11月1日から22年1月31日まで、地元写真家（住民）主体で実施しました。

(内容の詳細)

平成19年1月の「三番瀬再生国際フォーラム」において、会場の写真展示を担当した県民が、公募により集まった、地元写真愛好家、一般県民、県や市の三番瀬関係事業（三番瀬キッズ見学会等）参加者などの写真を、実行委員会メンバーが新たに撮影した写真と併せ、三番瀬の広報拠点である三番瀬サテライトオフィスに、平成21年11月1日から12月28日（一部作品については、平成22年1月31日）まで、展示をしました。展示写真の総数は、約230点でした。

当初計画していた写真展は平成21年12月28日で予定通り終了しましたが、その後、一部作品について、継続して22年1月31日まで三番瀬サテライトオフィスで展示しました。また一部作品については、インターネットで公開しました（期間中のサテライトオフィス来場者は約2600名で前年同期比で約250人の増でした）。

なお、応募のあった写真の画像データや一部の画材については、広報資料等において無償で活用することを前提に、県に提供しました。

(2)事業の実施経過

7月～10月	開催に向けての準備打ち合わせ、展示用資材作成
9月～11月	一般県民からの写真募集
10月下旬	作品の加工（展示のためのパネル化）、展示準備作業
11月1日～	写真展開催、随時展示物管理・入れ替え
12月28日	当初会期終了
1月	展示継続、残務整理（報告書作成等）

(3)事業の実施による三番瀬再生・保全や地域住民が親しめる海の再生への効果の発現状況

新たに多くの三番瀬の写真を、三番瀬サテライトオフィスに展示することにより、三番瀬サテライトオフィスの魅力の向上につながったと共に、今回の写真展開催は、実行委員も含め、応募者や来場者が三番瀬を訪れるキッカケとなったものと思われます。

また、三番瀬サテライトオフィスを使った市民による情報発信や展示作品（画像）の自由利用は、三番瀬再生計画の「広報」全般に大きく役立つと考え、今後も役立つものと考えています。

さらに、今回の写真展の一部展示作品について、会期後に谷津干潟自然観察センターでの展示機会を得ることが出来ましたが、これは、間接的ですが三番瀬と谷津干潟の連携の一助になったのではないかと思います。

補助事業成果報告書

1 補助事業名

三番瀬カレンダー制作

2 補助事業の実施結果概要

申請書の同じ項目と比較し、この補助金を使用して行った事業の概要を簡潔に記載してください。

(1)実施事業内容の概要

三番瀬カレンダーを 5500 部作成した。県民特に小学生に三番瀬の貴重さ、重要さ、伝統を理解しやすい映像(写真)を集めることに重点を置きました。このカレンダーを見たら、誰でもが必ず三番瀬に行きたくなることを目的にしましたので、検討会議で議論をかさねて、写真・解説文・イラストを推敲しました。三番瀬周辺浦安 市川 船橋 習志野の4市の小学校の全教室に1部ずつと社会教育施設などに計3000部を贈呈しました。

環境関連団体・カレンダー制作関係者・マスコミ・県再生会議などに計 500 部贈呈しました。

実費配布ではマスコミ・ミニコミや商店街や祭り会場や駅前での宣伝活動もおこない、実費配布協力団体や書店などに見本提供を120部などとして計1633部を実費配布しました。

(2)事業の実施経過

7月下旬写真説明文・イラストなど検討に時間をかけて、最終決定する。

8月校正して、印刷には色見本で立ち会い、品質のいい印刷に仕上げる。

9月上旬～10月初めまで：2010三番瀬カレンダーの拡大 A1したもの本町通り商店街展示室に第1回目の展示でいい反響をよぶ。

9月中旬 MYFUNA の HP に三番瀬カレンダー記事掲載される。

9月下旬 2010三番瀬カレンダー出来上がり、記者会見する

10月上旬 お菜浦まつり・市川市民まつり・バードフェスティバルなどで、カレンダー宣伝販売する。

10月下旬 4市の小学校と社会教育施設に 3000 部贈呈する。

11月 JR 本八幡駅前で宣伝販売活動を行う。好評なので、12月も行う。

12月キララホールでの集会や第2回目の本町通り商店街展示室に展示は2月中までする。。

(3)事業の実施による三番瀬再生・保全や地域住民が親しめる海の再生への効果の発現状況

すべての教育委員会から、感謝の言葉をもらいましたが、昨年度は各校 1 部の配布でしたので、子供の目に触れる機会が少なかったですが、今回は直接見られるので、三番瀬に関心を持つ子どもたちがずいぶんと増えるだろうと云うことでした。

小学校の先生からは「各クラスにカレンダー1部ずつ届くことは信じられないことです。子供たちは大変興味深く見ているので、ぜひこれからもカレンダーの発行を続けてください。」との感想をいただきました。

本町通り商店街の展示室に展示したら、「船橋市民でもほとんど知らないことばかりなので、もっと広く色々なところに展示して欲しい」との意見を頂きましたので、市役所でまず展示することにしました。船橋の漁業についても、ほとんど知られていないことが解りましたので、これも市役所にて展示することにしました。

以上ように三番瀬カレンダーをどうして、三番瀬への関心が広がっていますが、今以上に広報活動の必要性を認識させられました。